

# HIROKYU ヒロキューの付けエサ 生いきんツインパックシリーズ

釣りエサのトップメーカー、ヒロキューでは付けエサ用のオキアミ、「生いきんツインパック」をシリーズ12アイテム発売。鮮度抜群、型くずれせず、冷凍庫でも凍らないのが特長。今回はカツオ、キハダ用としてレギュラーとクリスタルハード、2Lサイズを持参した。



## （生いきん ツインパック）レギュラー

★南極トロール船で捕獲したオキアミの中で最高のものを厳選、加工した不凍タイプの付けエサ。M、ML、L、2Lの4種。価格はオープン

## （生いきん ツインパック）クリスタルハード

★生いきんのプリプリ感そのままに身を詰めてエサ持ちがいいハードタイプ。M、ML、L、2Lの4種。価格はオープン

**しほみんのエサ付け法**

**丸掛け**  
▶ハリ全体を隠す付け方

**1匹掛け**  
◀基本のエサ付け

**2匹掛け**  
▶ボリュームある付け方



▲カツオは専門に狙えば型を見られたかも  
◀8キロ級のキメジも

「早い時間からアタることは少ない。むしろアタリが途絶え、静かな船上に戻るが、しほみんは手を休めることなく釣り続ける。そんな努力が結果的にアタリが来た。」

「アツ、アタった」と小さな声をあげる。竿は大きく曲がり、リールからジューツと道糸が出ていく。すかさずしほみんは竿尻を下腹にすえ、臨戦態勢に入った。

「あ〜っ……バレた」

釣り座にへたり込み、顔を突っ伏せるしほみん。巻き上げてみると、ハリは無事、スッポ抜けだったのだ。

「しっかり合わせたのに〜」

船長にも確認したが、「掛かり所が悪かったのだろう。運が悪かったとしか言いようがない」と慰められた。

続いて右隣の方にもアタリが

「ハリにはオキアミ以外、余計なものはないほうがいいよ」とのアドバイス。しほみんはハリス26号10メートル、ハリには「生いきんツインパッククリスタルハード2L」を1匹掛け、指示された上から40メートルのタナでさっそく釣り開始である。例によってしばらくはアタリなし。

「早くアタリが途絶え、静かな船上に戻るが、しほみんは手を休めることなく釣り続ける。そんな努力が結果的にアタリが来た。」

「アツ、アタった」と小さな声をあげる。竿は大きく曲がり、リールからジューツと道糸が出ていく。すかさずしほみんは竿尻を下腹にすえ、臨戦態勢に入った。

「あ〜っ……バレた」

釣り座にへたり込み、顔を突っ伏せるしほみん。巻き上げてみると、ハリは無事、スッポ抜けだったのだ。

「しっかり合わせたのに〜」

船長にも確認したが、「掛かり所が悪かったのだろう。運が悪かったとしか言いようがない」と慰められた。

続いて右隣の方にもアタリが

★近日ヒロキューHPにて動画も公開されます。アクセスはここ。



●その5日後、しほみんはプライベートで釣行し、43キロを釣って見事、雪辱を果たした。



▲しほみん愛用の生いきん、2タイプを持参



▲2日間もしほみんは休むことなく竿を持ち続けた

▶瀬ノ海のタナ40メートル前後を攻めた



★「アタった〜」と言いながらすぐさま臨戦態勢に入るが……



▲ハリス26号10メートル、生いきんクリスタルハード2Lを使用  
▶タックルは完璧



## 不定期連載◎第2回 相模湾平塚港出船のキハダ

# キハダアングラーしほみん「せっかく掛けたのに〜」の巻



▲しばらく固まったままだった



★すっかり釣りの魅力に取りつかれたしほみんは、単なる釣り好きタレントではない。今や様々な釣りに出かけ、大物から小物まで釣りまくる女性アングラーと呼ばれる存在。数ある釣り物のなかで、釣行回数トップにあるのが相模湾のキハダだ。



▶庄三郎丸では2度目のチャレンジ。今日こそは……  
◀船中1本目は53.6キロ。しほみんもわがごとく喜んだ

「今日はずっと固まったままだった。一発目のアタリは左舷ミヨシの常連さんだった。全員が竿を上げると、手慣れたヤリトリが開始され、しほみんも自分のことのように真剣な眼差しで見守る。約30分の激闘の末、海面に姿を現したのは後検量53・6キロの大物、しほみんもひと安心の表情だった。

「今度は私の番よ」とでも言うたげに、釣り座へ戻って釣り再開。

しばらくアタリが途絶え、静かな船上に戻るが、しほみんは手を休めることなく釣り続ける。そんな努力が結果的にアタリが来た。」

「アツ、アタった」と小さな声をあげる。竿は大きく曲がり、リールからジューツと道糸が出ていく。すかさずしほみんは竿尻を下腹にすえ、臨戦態勢に入った。

「あ〜っ……バレた」

釣り座にへたり込み、顔を突っ伏せるしほみん。巻き上げてみると、ハリは無事、スッポ抜けだったのだ。

「しっかり合わせたのに〜」

船長にも確認したが、「掛かり所が悪かったのだろう。運が悪かったとしか言いようがない」と慰められた。

続いて右隣の方にもアタリが

そもそもしほみんが釣りにハマるきっかけとなったのが3年前に経験した相模湾のカツオ、キハダ釣り。初めて釣ったカツオの引きの強さ、何より釣りの時のカツオの味に、思わずひっくり返ってしまったのがその理由だ。

それから寸暇を惜しんで釣行を重ね、わずか2年のうちに58・9キロの大物を筆頭にキハダ6本、キメジ、カツオは数知れずというキハダハンターに成長した。この釣りに関しては別格な存在とみなしていいだろう。ただし、キハダは安易に釣れるターゲットではないのは「存じ」とおり。今期初釣行は8月中旬、乗船したのは相模湾平塚港の庄三郎丸である。

早めに乗船し、船長に最近の状況を確認してまず始めるのが仕掛け作り。バッグの中には16〜30号まで数種のハリス、釣り物に見合うハリを用意。サクサクと作り上げてしまうところにも経験値を感じる。

この日はナブラとの追っかけ釣りという展開。あいにくカツオも見放され、船中2本。キハダのアタリは皆無、しほみんも残念ながらノーヒットに終わった。

2日目は9月下旬、同じく庄